

TOP 30th Anniversary

Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2025

15 DAYS

PROJECT Project Description Date Project Contacts Documents enclosed Notes

DOCS:



Images and Records

31 Jan — 16 Feb 2025

総合開館30周年記念 恵比寿映像祭2025 Docs —これはイメージです—

恵比寿映像祭2025は、2025年に総合開館30周年を迎える東京都写真美術館をメイン会場に、あらためてメディアの変容を考察するとともに、19世紀から現代までの多様な表現を紹介し、言葉とイメージの問題をひも解きます。

総合開館30周年記念

恵比寿映像祭2025 総合テーマについて

「Docs —これはイメージです—」

Docs: Images and Records

東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／日本経済新聞社は2025年1月31日（金）～2月16日（日）の15日間にわたり、東京都写真美術館をメイン会場に、恵比寿ガーデンプレイス各所などで「総合開館30周年記念 恵比寿映像祭2025 Docs —これはイメージです—」を開催します。この度の恵比寿映像祭では、メディアの変容に着目し、幅広い作品群をイメージと言葉からひも解くことで、「ドキュメント／ドキュメンタリー」の再考を試みます。

ドキュメント（document）は書類や文書を意味し、事実に基づく情報の記録（言葉はもとより写真・映像などのイメージを含む）を指します。そして、これを形容詞化したドキュメンタリー（documentary）にはドキュメント的という形容詞の語義だけでなく、記録映画という名詞の意味も含まれます。

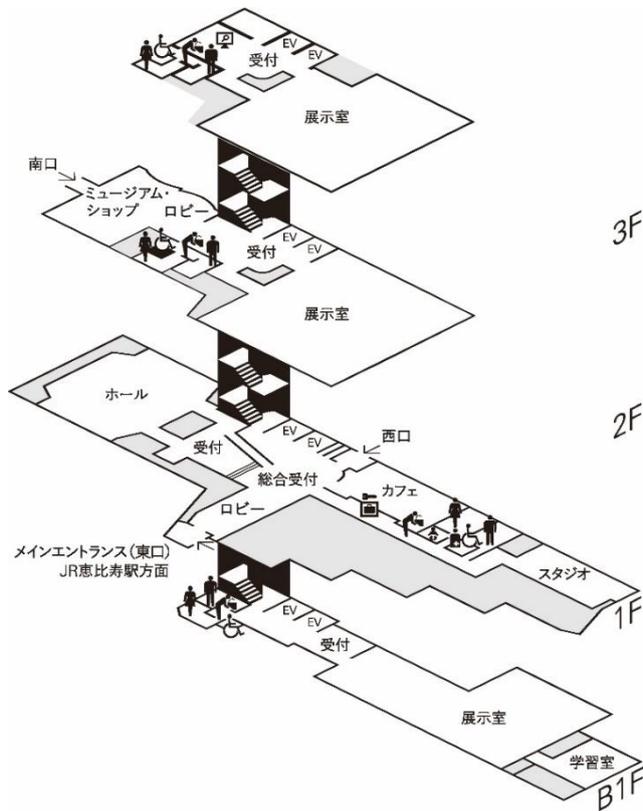
実写映画の起点がリュミエール兄弟による、工場から出てくる人々を記録した《工場の出口》（1895年）であることはよく知られています。公開時、人々は日常で目にする光景が、実際の出来事のように、眼前に記録・再生されることに驚愕しました。この発明から130年を経た現在、誰もが写真や映像で生活を記録し、共有することが当たり前になっています。また、写真は画像へ、映像は動画へ、いわば制御可能なデジタルデータへと拡張し、事実とそれを表すイメージとの関係はより複雑で曖昧なものになっているのではないのでしょうか。

「総合開館30周年記念 恵比寿映像祭2025」では、東京都写真美術館の館内全フロアにおいて、国内外で活躍するアーティストによる映像、写真、資料などのパフォーマンスや身体性と関連する作品群、さらに第2回目となる「コミッション・プロジェクト」のファイナリストによる新作、東京都コレクションの展示及び上映、パフォーマンス、ライブ、トーク、ワークショップなどのプログラムを通して、19世紀から現代にいたるさまざまな表現を紹介し、時間を記録することに焦点をあてながらアーカイヴを掘り下げ、言葉とイメージの問題をひも解きます。

また、手話通訳付きトークや鑑賞サポートをより充実させ、多様な背景を持つ来場者一人ひとりが文化や表現に出会う環境をつくります。そして、恵比寿ガーデンプレイス各所で展開するオフサイト展示では、テーマに寄り添った作品を体験できる場を創出し、恵比寿地域の文化関連施設と連携して広がりある豊かな芸術文化が享受できる場を提供します。

構成 | 展示や上映、トークやイベントなど、多種多彩なプログラムを開催！

※詳細プログラムは2025年1月上旬に発表予定です。



・コミッション・プロジェクト（3F展示室）

国際的な発信および新しい文化価値の醸成を目的に、恵比寿映像祭2023から始まった制作委嘱事業が「コミッション・プロジェクト」。恵比寿映像祭2025では昨年度決定した4名のファイナリスト、小田香、小森はるか、永田康祐、牧原依里による新作を発表。

・展示（2F・地下1F展示室）

ドキュメンタリーの視点から写真や映像を主とした様々な表現を展示し、「ドキュメント／ドキュメンタリー」を、言葉とイメージの関係性を通して再考します。トニー・コークスや劉珣による日本初公開作品、東京都コレクションからW・H・F・タルボット、藤幡正樹、杉本博司など国内外の多様な作品を紹介。

・上映（1Fホール）

コミッション・プロジェクトのファイナリストの過去作品など、総合テーマと呼応する特別上映プログラムを連日お届けします。

・ライブ・イベント（1Fホール・展示室ほか）

東京都写真美術館 1階ホールや各展示室を会場に、従来の映像の枠を超えたパフォーマンスを行います。

・教育普及プログラム（1Fスタジオほか）

ワークショップ、トークなど、恵比寿映像祭をより身近に、より深く楽しんでいただくため、様々なプログラムを用意します。

・オフサイト展示（恵比寿ガーデンプレイス各所）

テキスト、音楽、映像の断片の再文脈化による独自の視覚表現で知られるトニー・コークスの作品をはじめとして、美術館から作品が飛び出し、恵比寿ガーデンプレイスの各所で展開します。

・シンポジウム／スペシャルトークセッション

（1Fホール）

総合テーマ「Docs —これはイメージです—」や映像アーカイヴを掘り下げるシンポジウムやトーク・セッションを行い、多彩な登壇者を迎えて開催します。

・地域連携プログラム（地域連携各所）

恵比寿近隣の地域で活動するアートの担い手がそれぞれの施設で選りすぐりの展覧会ほか多彩なイベントを開催します。また同時に各施設をめぐるシールラリーを通じて、フェスティバルを楽しむきっかけをつくります。

社会共生の取り組み

東京都写真美術館はどなたにも恵比寿映像祭2025を楽しんでいただけるよう、手話通訳付きトークや鑑賞サポートをより充実させ、アクセシビリティの向上に取り組んでいます。アクセシビリティとは、「利用できること」。身体の機能や認知の特性にかかわらず、その人の行きたい、見たい、知りたい、使いたいなどのニーズが満たせることを目指しています。